

大学等名	川崎医療福祉大学
プログラム名	川崎医療福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 教育プログラムの修了要件
② 対象となる学部・学科名称

学部・学科によって、修了要件は相違しない

- ### ③ 修了要件

データサイエンス分野の「データサイエンス」必修2単位を履修し、単位認定されること。

必要最低科目数・単位数

1 科目

2 单位

履修必須の有無

令和8年度までに履修必須とする計画

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑦「活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス	4-7データハンドリング		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「データサイエンス」2回目 ・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「データサイエンス」3回目 ・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス」3回目
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーション)「データサイエンス」12回目 ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AI)「データサイエンス」12回目
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス」4回目 ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス」4回目 ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス」4回目 ・構造化データ、非構造化データ「データサイエンス」5回目 ・アノテーション「データサイエンス」5回目
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(文化活動など)「データサイエンス」6回目 ・研究開発、マーケティングなど「データサイエンス」6回目 ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス」6回目
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング「データサイエンス」7回目 ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化「データサイエンス」7回目 ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理「データサイエンス」8回目 ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと「データサイエンス」8回目 ・生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「データサイエンス」8回目
	1-5	・データサイエンスのサイクル「データサイエンス」9回目 ・交通、医療・介護、ものづくり、農業におけるデータ・AI活用事例「データサイエンス」10回目 ・食品、防災、エネルギー、芸術、教育におけるデータ・AI活用事例「データサイエンス」11回目

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題、(ELSI)「データサイエンス」13回目 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス」13回目 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用「データサイエンス」14回目 ・AI社会原則「データサイエンス」14回目 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「データサイエンス」14回目
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「データサイエンス」15回目 ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証とパスワード、アクセス制御「データサイエンス」15回目 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス」15回目 ・サイバーセキュリティ「データサイエンス」15回目
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス」14回目 ・データの分布(ヒストグラム)「データサイエンス」12回目 ・代表値(平均値)「データサイエンス」6,7,9,11,12回目 ・代表値(中央値)「データサイエンス」11,12回目 ・代表値(最頻値)「データサイエンス」12回目 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データサイエンス」12回目 ・データのばらつき(標準偏差)「データサイエンス」7,9,11回目 ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「データサイエンス」13回目 ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査)「データサイエンス」6回目 ・クロス集計表「データサイエンス」14回目 ・打ち切りや欠損を含むデータ「データサイエンス」8回目
	2-2	・データ表現(棒グラフ)「データサイエンス」3,14回目 ・データ表現(折線グラフ)「データサイエンス」4,5,6,7,9,15回目 ・データ表現(箱ひげ図)「データサイエンス」11回目 ・データ表現(散布図)「データサイエンス」13回目 ・データの比較(条件をそろえた比較)「データサイエンス」6,7,12,13,15回目
	2-3	・データの取得「データサイエンス」4,8,14,15回目 ・表形式のデータ(csv)「データサイエンス」4,5,6,7,8回目 ・データの集計(平均)「データサイエンス」6,7,8回目 ・データの集計(和)「データサイエンス」15回目 ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス」10回目 ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「データサイエンス」14回目

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。
 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。
 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。
 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
【データサイエンス】データ・AI利活用のための技術(8回目)で「1-4. データ・AI利活用のための技術」の生成AIの活用のために「プロンプトエンジニアリング」が重要であり、具体的なちょっとしたコツがAIからの結果の質を高めることを説明した。 【データサイエンス】データ・AIを扱う上での留意事項(14回目)で「3-1. データ・AIを扱う上での留意事項」のデータ・AI活用による負の事例紹介において、具体的な事例(人事採用AIにおける性差別・偏見)を取り上げAIのブラックボックス問題について説明した。 【データサイエンス】データ・AIを扱う上での留意事項(14回目)で「3-1. データ・AIを扱う上での留意事項」の生成AIの留意事項において、最近の事例(クマ目撃情報)を取り上げAIで生成し偽情報(フェイクニュース)について説明した。

【履修年度：2026年度】

B5111106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	理学[51]	1年次・春学期[11]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
春学期：月曜-1限						
担当者						
小池 大介，重田 崇之*						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[リハ]理学療法(1年)，[リハ]作業療法(1年)，[リハ]言語聴覚(1年)，[リハ]視能療法(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

2026/06/08 11:37

川崎医療福祉大学シラバス - データサイエンス

[5]社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）	[12]データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値）
[6]データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ）	[13]データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果）
[7]データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ）	[14]データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ）
[8]データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[15]データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）

評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。）	
[備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。	
演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。	
課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』（技術評論社）(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間	
文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。	
予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。	
復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。	
教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。	
また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B5111106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	理学[51]	1年次・春学期[11]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
春学期：月曜-2限						
担当者						
小池 大介，筑後 一郎						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[リハ]理学療法(1年)，[リハ]作業療法(1年)，[リハ]言語聴覚(1年)，[リハ]視能療法(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

2026/06/08 11:40

川崎医療福祉大学シラバス - データサイエンス

[5]社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）	[12]データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値）
[6]データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ）	[13]データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果）
[7]データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ）	[14]データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ）
[8]データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[15]データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）

評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。） [備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』（技術評論社）(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B5112106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	理学[51]	1年次・秋学期[12]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
秋学期：月曜-1限						
担当者						
小池 大介，重田 崇之*						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[リハ]理学療法(1年)，[リハ]作業療法(1年)，[リハ]言語聴覚(1年)，[リハ]視能療法(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

2026/06/08 11:42

川崎医療福祉大学シラバス - データサイエンス

[5]社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）	[12]データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値）
[6]データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ）	[13]データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果）
[7]データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ）	[14]データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ）
[8]データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[15]データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）
評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。） [備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』（技術評論社）(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B5112106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	理学[51]	1年次・秋学期[12]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
秋学期：月曜-2限						
担当者						
小池 大介，筑後 一郎						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[リハ]理学療法(1年)，[リハ]作業療法(1年)，[リハ]言語聴覚(1年)，[リハ]視能療法(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

2026/06/08 11:45

川崎医療福祉大学シラバス - データサイエンス

[5] 社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）	[12] データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値）
[6] データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ）	[13] データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果）
[7] データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ）	[14] データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ）
[8] データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[15] データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）

評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。） [備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』（技術評論社）(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B1111106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	SW[11]	1年次・春学期[11]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
春学期：水曜-1限						
担当者						
小池 大介，大井 悠成						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[福祉]福祉(SW)(1年)，[福祉]福祉(初等)(1年)，[福祉]臨床心理(1年)，[福祉]医療保育(1年)，[技術]健康体育(1年)，[技術]臨床栄養(1年)，[マネ]医療コミ(1年)，[マネ]デザイン(1年)，[マネ]医療DS(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ）		
[2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表）				[10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター）		
[3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ）				[11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図		
[4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデー						

タ)、時系列データの可視化(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)		(平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図)
[5]社会で活用されているデータ(構造化データ、非構造化データ、アノテーション)、時系列データの可視化と比較(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)	[12]データ・AI利活用の最新動向(シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI)、度数分布とヒストグラムの作成(度数分布表、ヒストグラム、最頻値)	
	[13]データ・AIを扱う上での留意事項(倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト)、散布図の作成と相関係数の算出(散布図、外れ値、相関係数、相関と因果)	
[6]データ・AIの活用領域(活用領域、活用目的)、平均の算出とその可視化(平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ)	[14]データ・AIを扱う上での留意事項(データ倫理、ハルシネーション)、定性データの扱い方とクロス集計(量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ)	
[7]データ・AI利活用のための技術(データ解析、データ可視化)、標準偏差の算出とその可視化(標準偏差、折れ線グラフ)	[15]データを守る上での留意事項(情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ)、学内自動販売機の売上データによる演習(データクレンジング、分析)	
[8]データ・AI利活用のための技術(非構造化データ、特化型AI、汎用AI)、大量データを扱う方法(データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング)		

評価方法	
[レポート] 100% (課題で評価を行う。)	
[備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』(技術評論社)(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B1111106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	SW[11]	1年次・春学期[11]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
春学期：水曜-2限						
担当者						
小池 大介，谷川 智宏						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[福祉]福祉(SW)(1年)，[福祉]福祉(初等)(1年)，[福祉]臨床心理(1年)，[福祉]医療保育(1年)，[技術]健康体育(1年)，[技術]臨床栄養(1年)，[マネ]医療コミ(1年)，[マネ]デザイン(1年)，[マネ]医療DS(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデー				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図		

タ)、時系列データの可視化(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)		(平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図)
[5]社会で活用されているデータ(構造化データ、非構造化データ、アノテーション)、時系列データの可視化と比較(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)		[12]データ・AI利活用の最新動向(シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI)、度数分布とヒストグラムの作成(度数分布表、ヒストグラム、最頻値)
[6]データ・AIの活用領域(活用領域、活用目的)、平均の算出とその可視化(平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ)		[13]データ・AIを扱う上での留意事項(倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト)、散布図の作成と相関係数の算出(散布図、外れ値、相関係数、相関と因果)
[7]データ・AI利活用のための技術(データ解析、データ可視化)、標準偏差の算出とその可視化(標準偏差、折れ線グラフ)		[14]データ・AIを扱う上での留意事項(データ倫理、ハルシネーション)、定性データの扱い方とクロス集計(量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ)
[8]データ・AI利活用のための技術(非構造化データ、特化型AI、汎用AI)、大量データを扱う方法(データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング)		[15]データを守る上での留意事項(情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ)、学内自動販売機の売上データによる演習(データクレンジング、分析)

評価方法	
[レポート] 100% (課題で評価を行う。)	
[備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』(技術評論社)(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B1112106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	SW[11]	1年次・秋学期[12]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
秋学期：水曜-1限						
担当者						
小池 大介，大井 悠成						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[福祉]福祉(SW)(1年)，[福祉]福祉(初等)(1年)，[福祉]臨床心理(1年)，[福祉]医療保育(1年)，[技術]健康体育(1年)，[技術]臨床栄養(1年)，[マネ]医療コミ(1年)，[マネ]デザイン(1年)，[マネ]医療DS(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ）		
[2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表）				[10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター）		
[3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ）				[11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図		
[4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデー						

タ)、時系列データの可視化(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)	
[5]社会で活用されているデータ(構造化データ、非構造化データ、アノテーション)、時系列データの可視化と比較(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)	[12]データ・AI利活用の最新動向(シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI)、度数分布とヒストグラムの作成(度数分布表、ヒストグラム、最頻値)
[6]データ・AIの活用領域(活用領域、活用目的)、平均の算出とその可視化(平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ)	[13]データ・AIを扱う上での留意事項(倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト)、散布図の作成と相関係数の算出(散布図、外れ値、相関係数、相関と因果)
[7]データ・AI利活用のための技術(データ解析、データ可視化)、標準偏差の算出とその可視化(標準偏差、折れ線グラフ)	[14]データ・AIを扱う上での留意事項(データ倫理、ハルシネーション)、定性データの扱い方とクロス集計(量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ)
[8]データ・AI利活用のための技術(非構造化データ、特化型AI、汎用AI)、大量データを扱う方法(データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング)	[15]データを守る上での留意事項(情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ)、学内自動販売機の売上データによる演習(データクレンジング、分析)

評価方法	
[レポート] 100% (課題で評価を行う。)	
[備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』(技術評論社)(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B1112106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	SW[11]	1年次・秋学期[12]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
秋学期：水曜-2限						
担当者						
小池 大介，谷川 智宏						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[福祉]福祉(SW)(1年)，[福祉]福祉(初等)(1年)，[福祉]臨床心理(1年)，[福祉]医療保育(1年)，[技術]健康体育(1年)，[技術]臨床栄養(1年)，[マネ]医療コミ(1年)，[マネ]デザイン(1年)，[マネ]医療DS(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデー				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図		

タ)、時系列データの可視化(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)		(平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図)
[5]社会で活用されているデータ(構造化データ、非構造化データ、アノテーション)、時系列データの可視化と比較(データの取得(csv)、データクレンジング、折れ線グラフ)	[12]データ・AI利活用の最新動向(シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI)、度数分布とヒストグラムの作成(度数分布表、ヒストグラム、最頻値)	
	[13]データ・AIを扱う上での留意事項(倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト)、散布図の作成と相関係数の算出(散布図、外れ値、相関係数、相関と因果)	
[6]データ・AIの活用領域(活用領域、活用目的)、平均の算出とその可視化(平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ)	[14]データ・AIを扱う上での留意事項(データ倫理、ハルシネーション)、定性データの扱い方とクロス集計(量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ)	
	[15]データを守る上での留意事項(情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ)、学内自動販売機の売上データによる演習(データクレンジング、分析)	
[7]データ・AI利活用のための技術(データ解析、データ可視化)、標準偏差の算出とその可視化(標準偏差、折れ線グラフ)		
[8]データ・AI利活用のための技術(非構造化データ、特化型AI、汎用AI)、大量データを扱う方法(データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング)		

評価方法	
[レポート] 100% (課題で評価を行う。)	
[備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』(技術評論社)(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B2611106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	臨工[26]	1年次・春学期[11]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
春学期：木曜-1限						
担当者						
小池 大介，大始良 義将						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[技術]臨床工学(1年)，[技術]臨床検査(1年)，[技術]診療放射(1年)，[看護]保健看護(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

[5]社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ） [6]データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ） [7]データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ） [8]データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[12]データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値）
	[13]データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果）
	[14]データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ）
	[15]データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）

評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。）	
[備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。	
演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。	
課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』（技術評論社）(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間	
文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。	
予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。	
復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。	
教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。	
また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B2611106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	臨工[26]	1年次・春学期[11]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
春学期：木曜-2限						
担当者						
小池 大介，高谷 健太						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[技術]臨床工学(1年)，[技術]臨床検査(1年)，[技術]診療放射(1年)，[看護]保健看護(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

[5]社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ） [6]データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ） [7]データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ） [8]データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[12]データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値）
	[13]データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果）
	[14]データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ）
	[15]データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）

評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。） [備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』(技術評論社) (2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B2612106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	臨工[26]	1年次・秋学期[12]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
秋学期：木曜-1限						
担当者						
小池 大介，大始良 義将						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[技術]臨床工学(1年)，[技術]臨床検査(1年)，[技術]診療放射(1年)，[看護]保健看護(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

2026/06/08 11:34

川崎医療福祉大学シラバス - データサイエンス

[5] 社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）	[12] データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値）
[6] データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ）	[13] データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果）
[7] データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ）	[14] データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ）
[8] データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[15] データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）

評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。） [備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』（技術評論社）(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

【履修年度：2026年度】

B2612106S

科目名【授業題目（基礎教育科目のみ）】				他学科履修	単位数	時間数
データサイエンス【数理・データサイエンス・AIリテラシーレベル】				可	2単位	30時間
基礎／専門	学科／専攻	年次・学期	必修/選択	分野		講義形態
基礎[B]	臨工[26]	1年次・秋学期[12]	必修[1]	データサイエンス分野[06]		演習[S]
開講情報（学期・曜日・時限）						
秋学期：木曜-2限						
担当者						
小池 大介，高谷 健太						
対象学科				※この科目は以下の学科で開講します。		
[技術]臨床工学(1年)，[技術]臨床検査(1年)，[技術]診療放射(1年)，[看護]保健看護(1年)						
講義形式						
対面授業						
実務経験を通じた実践的教育内容						
特になし						
授業のねらい						
Society 5.0 の時代に必要となる数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を身につけることを目的とする。データの収集・整理・可視化や基本的な分析手法、AI の仕組みと限界を演習を通して学び、社会課題に対してデータに基づく合理的な判断ができる力の育成を目指す。						
到達目標						
データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。 データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。 データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。 データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連						
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーのうち、以下のポリシーの達成に関与しています。 2. 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。 3. 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。						
授業内容						
本授業では、社会におけるデータ・AI の利活用の現状を概観し、データ・AI を扱う際に求められる倫理的・法的な留意事項について解説する。 さらに、インターネット上で公開されているオープンデータや、学内に設置された自動販売機の売上データなど身近なデータを用いた演習を通して、データの取得・整理・可視化・基礎的な分析までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。						
授業の特色						
コンピュータ実習室のパソコンを用いた演習						
授業計画						
[1]ガイダンス（講義内容や進め方） [2]社会で起きている変化（IoT、ビッグデータ、AI、生成AI、ロボット）、Excelの基本的な操作方法（表） [3]社会で起きている変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会）、Excelの基本的な操作方法（棒グラフ） [4]社会で活用されているデータ（調査データ、ログデータ、実験データ、1次データ、2次データ、メタデータ）、時系列データの可視化（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ）				[9] データ・AI利活用の現場（データサイエンスサイクル）、大量データを扱う方法（平均、標準偏差、折れ線グラフ） [10]データ・AI利活用の現場（活用例：交通、医療・介護、ものづくり、農業）、基本統計量の算出と箱ひげ図（データクレンジング、ユーザ定義の書式設定、フィルター） [11]データ・AI利活用の現場（活用例：食品、防災、エネルギー、芸術、教育）、基本統計量の算出と箱ひげ図（平均値、中央値、最大値、最小値、箱ひげ図）		

2026/06/08 11:34

川崎医療福祉大学シラバス - データサイエンス

[5]社会で活用されているデータ（構造化データ、非構造化データ、アノテーション）、時系列データの可視化と比較（データの取得（csv）、データクレンジング、折れ線グラフ） [6]データ・AIの活用領域（活用領域、活用目的）、平均の算出とその可視化（平均値、データの比較、全数調査、標本調査、折れ線グラフ） [7]データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化）、標準偏差の算出とその可視化（標準偏差、折れ線グラフ） [8]データ・AI利活用のための技術（非構造化データ、特化型AI、汎用AI）、大量データを扱う方法（データの取得、打ち切り、欠損、データクレンジング）	[12]データ・AI利活用の最新動向（シェアリングエコノミー、レコメンデーション、強化学習、転移学習、生成AI）、度数分布とヒストグラムの作成（度数分布表、ヒストグラム、最頻値） [13]データ・AIを扱う上での留意事項（倫理的・法的・社会的課題、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト）、散布図の作成と相関係数の算出（散布図、外れ値、相関係数、相関と因果） [14]データ・AIを扱う上での留意事項（データ倫理、ハルシネーション）、定性データの扱い方とクロス集計（量的変数、質的変数、クロス集計表、ピボットテーブル、ピボットグラフ） [15]データを守る上での留意事項（情報セキュリティの3要素、暗号化と復号、セキュリティ事故の事例、サイバーセキュリティ）、学内自動販売機の売上データによる演習（データクレンジング、分析）
評価方法	
[レポート] 100%（課題で評価を行う。） [備考] 初回授業にて、評価方法や出席の取り方などについて説明する。 演習形式の授業であるため、欠席や遅刻なく受講すること。 課題による成績評価が適切でないと判断した場合には、評価方法を定期試験に変更する場合がある。	
学修成果に対するフィードバック	
リアクションペーパーは必要に応じて次回以降の講義内でコメントする	
テキスト	
吉岡剛志編著；森倉悠介, 小林領, 照屋健作共著『AIデータサイエンスリテラシー入門：基礎学習』（技術評論社）(2024)(ISBN:9784297144098)	
参考書	
特になし	
Webを通じて無償で入手可能な教材・ソフトウェア等	
特になし	
準備学習等	
【自宅学習時間の目安】 予習時間：1 時間、復習時間：1 時間 文字入力によって作業に個人差が生じるため、授業時間以外でもパソコンに触れる習慣をつけ、パソコンの基本操作とタッチタイピングができるようにしておくことが望ましい。 予習：テキストの次回授業範囲を確認しておく。 復習：授業で扱った内容や得た知識を再確認し、理解を深めておく。	
担当教員からのメッセージ	
数理・データサイエンス・AI の基礎的素養は、学生として、そして将来社会人として身につけておくべき重要な知識・技能です。本授業を通じてしっかりと学び、確実に習得してください。 教員への連絡はWebClassのメッセージ機能を使用してください。 また、教員から学生への連絡もWebClassのメッセージ機能を使用します。	

《GPAの算定基準》

評価	秀	優	良	可	不可	評価不能	認定	保留
英語表記	S	A	B	C	D	E	P	H
GP値	4	3	2	1	0	0	—	—
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59以下	受講・受験せず	単位認定	単位保留

《算定式》

$$\text{GPA値} = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{当該科目の評価のGP値})] \text{の総和}}{\text{履修登録した単位数の総和}}$$

(※「認定」「保留」は除く。小数点第二位を四捨五入)

3 GPAの活用に関し必要な事項は、別に定める。

(退学勧告)

第12条の3 学長は、学生の成績が著しく不振であると認める場合は、教授会の議を経て、退学を勧告することができる。

2 基準については、別に定める。

(不正行為に対する成績判定)

第13条 第10条に定める定期試験等における不正行為があった者、または不正行為があったと認められる者については、当該学期の全授業科目の単位認定を受けることができない。

(進級及び卒業)

第14条 進級及び卒業認定については、学科毎に別に定める。

(編入学生、転学部・転学科生、再入学生の履修)

第15条 本学に編入学した者は、当該者の所属する年次に在学する学生に適用する教育課程を履修する。

2 転学部・転学科した者は、当該者の所属する年次に在学する学生に適用する教育課程を履修する。

3 再入学した者は、当該者の所属する年次に在学する学生に適用する教育課程を履修する。

第16条 略

附 則

略

2) KAWASAKI DIPLOMA SYSTEM

最大の学修効果を得るシステム

「DIPLOMA (ディプロマ)」とは、辞書で引くと、卒業証書、学位、資格免許状などを意味しており、文字通り大学における教育内容を表す言葉ですが、本学では、学生個人がそれぞれ自分に向いた履修計画を自分自身で設計する履修システムとして、『KAWASAKI DIPLOMA SYSTEM (川崎ディプロマシステム)』を導入しています。



『KAWASAKI DIPLOMA SYSTEM』という「DIPLOMA」とは、「Design for an Individual Program of Learning to Obtain Maximum Achievements」の頭文字をとっており、「最大の学修効果を得るために、学生個人がそれぞれ自分に向いた履修計画を自分自身で設計することができる履修システム」と位置づけています。

具体的には

「STARTS」と「GOALS」の2つの教育プログラムで構成されています。「STARTS」は、

「Standard of Academic Requirements for Technical Subjects」で、「専門科目を履修するために必要な基礎学力のスタンダード」を示し、専門科目を履修するために必要な基礎学力を身につけることに加え、医療福祉の原点であるコミュニケーションを行ううえで必要となる豊かな力を身につけるためのスタンダード科目を配置して、人間教育に力を注ぎます。「GOALS」は、「Guide to Occupational Ability and Leadership」で、「職業に必要な専門的能力や専門家としての指導力を得るための履修ガイド」を示し、各学科における人材養成の目的に沿った専門分野をきわめるとともに、職業に必要な専門能力や専門家としての指導力を得るためのカリキュラムを提供し、川崎学園関連施設である川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センター、川崎医科大学高齢者医療センター、かわさきこども園や旭川荘など、恵まれた教育環境を活かして実習や演習を充実させ、一貫して実践的な教育に力を注ぎます。

スターツアワー

本学では、各学科が効果的に初年次教育を行うために、全学共通で取り組むべき内容を初年次教育プログラム「スターツアワー」として構成し、入学後の早い時期に実施します。このプログラムでは、医療福祉の理念を実践するための導入として、大学の理念、医学医療を取り巻く環境、病院システムやチーム医療などについての講義と医療福祉施設の研修から成る授業科目を開講します。また、スタディスキルに関する事項、充実したキャンパスライフを送るための知識等について、オリエンテーション期間やアセンブリーアワーを活用して講演を実施するとともに、各学科のガイダンスにおいて履修指導や学生生活指導を行います。

このように、本学では「スターツアワー」を、入学した意義と意味を学生自らが考える機会を提供する場として位置づけており、実社会において医療福祉の理念を真に実践できる人材育成の取り組みの一つとしています（日程および実施内容等の詳細については、別途お知らせします）。

スターツアワー	新入生オリエンテーション	・医療福祉に関するマナー ・快適な学生生活のために ・LSC（ラーニングサポートセンター）について ・こころとからだの健康管理 他
	授業（基礎教育科目）	医療福祉の源流 2単位 ※シラバス参照
		医療福祉学概論 2単位 ※シラバス参照
	学科別オリエンテーション	・アカデミックスキルの向上 ・学科キャリアデザイン ・学科別研修 他

豊かな人間性を育む多彩なカリキュラム

《基礎教育科目》

医療福祉の原点は人間と人間のかかわりです。専門知識と技術力を身につけたスペシャリストである前に、まずは一人の人間として、人間とかかわる豊かな心を持つ必要があります。そのためには、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、コミュニケーション能力などが必要です。そのこ

とを踏まえ、「分野・学部等横断カリキュラム」として、自然科学系、および人文・社会科学系科目の両方をバランスよく履修するように配置するとともに、専門科目を履修するために必要な基礎学力のスタンダードとして、また社会の変化や学生の皆さんのニーズに合わせて、6つの分野から構成された全学共通の基礎教育科目を提供しています。

(1) 医療福祉分野

「医療福祉」という総合的な視点を持つことを目標にした本学の特徴的な分野です。「医療福祉の源流」「入門医学概論」「医療福祉学概論」「生命倫理学」の4つの必修科目があり、治療を目的とする医療と支援を目的とする福祉の密接な連携について理解を深めます。本学のみならず、川崎医科大学・川崎医科大学附属病院・川崎医科大学総合医療センター・旭川荘他での豊富な経験を持つ教員が科目を担当します。

(2) 教養分野

人の多様性を理解し、すべての人を敬う心を持つと共に、自然の基本法則を正しく理解することを目標とした分野です。論理的で分かりやすい文章表現能力の向上を目指す必修の「文章表現」のほか、人文科学系・社会科学系・自然科学系の豊富な選択科目を開講しています。

(3) コミュニケーション分野

グローバル化が進み多文化共生社会となった今日は、誰もが必要な情報の取得、利用、意思疎通ができるよう、コミュニケーションの重要性が叫ばれています。本分野では、「英語」や「日本語」等の音声言語、手話その他の形態の非音声言語、対人関係を円滑にするための一般的なコミュニケーション技術に着目します。多様な環境で柔軟に対応できる、幅広いコミュニケーション能力を備えた医療福祉の専門家を育成するための科目を開講しています。

(4) 健康体育分野

健やかな心と体の獲得または維持・増進を目標とし、「体をつくる」という大学の理念に基づいています。心を含めた体をつくることは、社会生活や医療福祉の基本です。本分野では、運動やスポーツを通じて他者への思いやりや協調性、コミュニケーションスキルを学び、生涯にわたる健康・体力づくりの力を養います。また、身近な人の健康増進にも貢献する意気を修得します。フィットネス系運動やパラスポーツなどといった未体験の運動・スポーツに主体的・積極的に取り組むことで、基礎的体力の維持・増進を目指し、さらには、インクルーシブスポーツへの理解を深めます。

(5) データサイエンス分野

情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会（Society 5.0）において不安なく安全に生活するために必要となる基礎的な知識および技能を身につけることを目的として設けた分野です。文部科学省が推奨している数理・データサイエンス・AIを含む、情報通信技術に関する基礎的な知識と技能の修得を目指します。

(6) 総合分野

現代社会が抱えるさまざまな問題について、学際的な視点から議論する力の修得を目標にした分野です。様々な分野の専門家が担当するオムニバス方式の講義を通じて、幅広い知識を修得します。また、「ボランティア入門」や「海外研修」など、実践的な学びの科目も設けられています。

本学では、上記のような「専門科目を履修するために必要な基礎学力を養う科目である基礎教育科目」と「専門分野をきわめ、職業に必要な専門的能力や専門家としての指導力を養うための専門科目」を学科ごとの目標・目的にあわせて配置するとともに、学生一人一人が教育目標を達

成するための具体的方策として履修ガイドを示すことにより、全学的にきめ細やかな学修支援体制の提供を行っています。

《教 職 課 程》

教育職員免許状を取得するためには、学士の学位を有し、かつ教育職員免許法ならびに同法施行規則に基づき、所定の単位数を修得しなければなりません。必要科目等は別途掲載している免許種ごとの教職課程履修科目表を参照の上、履修してください。

免許状の種類及び教科

学 部	学 科	教育職員の免許状の種類（免許教科）
医 療 福 祉 学 部	医療福祉学科	＜ソーシャルワークコース＞ 高等学校教諭一種免許状（福祉） ＜初等・特別支援教育コース＞ 小学校教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状（視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する教育の領域）
	医療保育学科	幼稚園教諭一種免許状
医 療 技 術 学 部	臨床栄養学科	栄養教諭一種免許状
	健康体育学科	中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健） 養護教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状（肢体不自由者・病弱者に関する教育の領域）

基礎教育科目表

別表(1)

区分	授 業 科 目	系統	単位 必修選択	1単位 あたりの 時間数	開設 年次	履修の方法	区分	授 業 科 目	系統	単位 必修選択	1単位 あたりの 時間数	開設 年次	履修の方法
医療福祉分野	医療福祉の源流	B	2	15	1	必修8単位	コミュニケーション分野	総合英語	D	2	15	1	必修科目を含む4単位以上
	入門医学概論	C	2	15	1			実践英語		2	15	1	
	医療福祉学概論	B	2	15	1			アカデミック・イングリッシュ		2	15	1	
	生命倫理学	A	2	15	1			グローバル・コミュニケーション		2	15	1	
教養分野	文章表現	A	2	15	1	必修科目を含む4単位以上	コミュニケーション分野	コミュニケーション論	B	2	15	1	必修科目を含む2単位以上
	医療福祉の歴史		2	15	1			プレゼンテーション入門		2	15	1	
	哲学		2	15	1			日本語コミュニケーション		2	15	1	
	心理学		2	15	1			視覚・聴覚障害者コミュニケーション		2	15	1	
	教育学	B	2	15	1		健康体育分野	健康体育リテラシー	E	1	15	1	必修科目を含む2単位以上
	日本国憲法		2	15	1			健康体育基礎演習		1	30	1	
	社会学		2	15	1			健康体育実技(スポーツ系)		1	30	1	
	人類学		2	15	1			健康体育実技(フィットネス系)		1	30	1	
	数学	C	2	15	1		データサイエンス分野	健康体育実技(パラスポーツ)		1	30	1	必修科目を含む4単位以上
	統計学		2	15	1			情報基礎リテラシー	C	2	15	1	
	物理学		2	15	1			データサイエンス		2	15	1	
	化学		2	15	1			ソフトウェアリテラシー		2	15	1	
総合分野	生物学	A	2	15	1		総合分野	医療情報学入門		2	15	1	2単位以上
								和の伝統文化	A	2	15	1	
								異文化理解		2	15	1	
								持続可能な社会に向けて		2	15	1	
		B						自閉症の理解と支援	B	2	15	1	
								ボランティア入門		2	15	1	
								生命科学	C	2	15	1	
								健康科学論		2	15	1	
海外研修		A					海外研修	ヒューマンセクシャリティー論		2	15	1	
								海外研修		2	15	1	

注) 系統のAは人文科学、Bは社会科学、Cは自然科学、Dは外国語、Eは保健体育を表す。

(卒業要件及び履修方法)

- 基礎教育科目の卒業要件は、別表(1)における、必修科目を含む26単位以上とする。(分野別の必修単位数の合計は24単位)
- リハビリテーション学部言語聴覚療法学科は、「統計学」及び「生物学」を必修とする。

※「初級パラスポーツ指導員」(公益財団法人日本パラスポーツ協会認定)

以下の開設科目を修得することにより、初級パラスポーツ指導員の資格を取得することができます。その他条件がありますので、詳細はシラバスを確認してください。

- ・「健康体育実技(パラスポーツ)」
- ・「ボランティア入門」

※「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」(文部科学省認定)

データサイエンス分野の「データサイエンス」必修2単位を履修し、単位認定されることでリテラシーレベルを修めたことになります。

川崎医療福祉大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム概要

基礎教育科目(全学共通26単位修得) = 医療福祉人基盤教育

医療福祉分野

国際コミュニケーション分野

教養分野

健康体育分野

総合分野

川崎医療福祉大学 数理・データサイエンス・AIプログラム
= Society5.0を担う人材の基盤教育

データサイエンス分野

・データサイエンス(必須2単位)

<到達目標>

- データ・AI 活用の意義を理解し、社会における活用例を説明できる。
- データの収集・整理・可視化を適切に行い、基礎的な分析ができる。
- データに基づいて合理的に考察し、意思決定につなげることができる。
- データ・AI 利活用に伴う倫理的・法的留意事項を理解し、説明できる。

専門教育科目(学科別98単位修得) = 医療福祉人専門教育

1年生

2年生

3年生

4年生

卒業

Society5.0を担う医療福祉人

- ・社会福祉士、精神保健福祉士
- ・公認心理師、臨床心理士
- ・保育士、幼小中高特支教諭
- ・看護師、保健師、助産師
- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・言語聴覚士
- ・視能訓練士
- ・臨床検査技師
- ・診療放射線技師
- ・臨床工学技士
- ・栄養士、管理栄養士
- ・健康運動指導士
- ・救急救命士
- ・診療情報管理士
- ・医療情報技師
- ・医療秘書、デザイナー、事務職